



発行元：広報委員会
発行責任者：広報委員長
鳥取赤十字病院
マスコットキャラクター
オリピー

健診特集号



健診で気づく「沈黙の臓器」の危険信号

～脂肪性肝疾患への理解と健診のすすめ～

消化器病専門医・肝臓専門医 横濱 桂介先生

肝臓は「沈黙の臓器」と呼ばれ、自覚症状なく病気が進行することがあります。近年、B型肝炎、C型肝炎は治療法の進歩により減少傾向です。これに代わって脂肪肝を中心とした疾患、中でも、糖尿病や高血圧などを伴う「代謝機能障害関連脂肪性肝疾患(MASLD)」が注目されています。MASLDは肝硬変や肝がんへ進行する可能性があり、国内に2,000万人以上の患者がいると推定されていますが、その多くの方が医療機関を受診されていないことが懸念されています。

そのため日本肝臓学会は「奈良宣言」で、慢性肝疾患の早期発見・治療の重要性を強調しており、健診でのALT値が30U/Lを超えた場合、医療機関の受診を推奨しています。脂肪肝と診断されたら、あるいはALT値が30U/Lを超えていたら、一度当院消化器内科の受診を御検討下さい。



肺がん検診を受けましょう～早期発見・早期治療のために～

呼吸器専門医・がん治療認定医 中崎 博文先生

肺がんは日本人の主要な死因の一つですが、早期発見・治療で治癒の可能性が高まります。鳥取県では一次検診の受診率が約30%と低いですが、毎年約50名が健診で肺がんを早期発見しています。

当院では、地域の健康のため肺がん検診(胸部X線検査等)を実施しており、特に40歳以上や喫煙歴のある方に定期的な受診を推奨しています。一次検診で要精密検査となった場合は、症状がなくても必ず二次検診を受けることが重要です。

当院では2名の呼吸器専門医が血液検査、CTや必要に応じて気管支鏡などを駆使して迅速に診断を行います。



口腔がん検診の重要性

口腔外科専門医・がん治療認定医 大竹 史浩先生

口腔がんは初期症状がほとんどなく、痛みや違和感、口内炎が治らないなどの症状が出た時には進行している可能性があります。日本は先進国で唯一口腔がん死亡数が激増しており、死亡率は35.5%と米国の約1.7倍です。進行すると舌や顎などの切除が必要となり、口の機能に大きな障害が残る悲惨な「がん」です。



写真:進行舌がん所見

口腔がん検診では、がんや異形成段階(がんになる前の状態)を早期発見し治療するために、お口の中をチェック(検診)します。がんに進化するまでには5~10年かかるため、最低でも年に1回の口腔がん検診で早期発見・治療を心がけましょう。

大腸がん ～検診の重要性について～

消化器病専門医・消化器外科専門医 齊藤 博昭先生

大腸がんは日本で最も多いがんです。年間約15万人が新たに大腸がんと診断され、約5万人が亡くなっていますが、早期発見で治癒の可能性が高まります。

早期発見には便潜血検査が重要です。この検査は自宅で便を採取するキット(右図)を使用し、手軽に行えます。便潜血検査で陽性でも必ずしもがんではなく、痔などが原因の場合もありますが、陽性者の約3%が大腸がんと診断されるため、速やかに大腸カメラを受ける必要があります。大腸カメラで確定診断を行い、早期であれば内視鏡治療、進行していても腹腔鏡手術やロボット手術が可能で、当院ではそれら全ての治療法で専門の医師が対応します。



当院で健診を受けた方で、陽性となった場合はそのまま当院で大腸カメラを当日中に予約することが出来ます。消化器内科の専門医が大腸カメラを行いますので安心して検査を受けていただけます。また、他の医療機関で便潜血陽性となった方でも、消化器内科外来にお問い合わせください。

6月中旬より人間ドックの予約枠が追加となりましたので、ご希望される方は健診センターまでお問い合わせください。

受付時間: 11:00~16:30(平日)

電話番号: 0857-29-5030(直通)

健診センターについて詳しくは右のQRコードから確認ください。



今回の記事の詳しい内容はこちらです

